

やまがたハッピーライフプロジェクト事業費／三世代同居・近居情報
発信事業

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	子育て推進部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策1 出会い・結婚・出産・子育ての希望の実現						
	目的	次代を担う子どもたちを育成する価値を社会全体で共有し、家庭、企業、地域などがそれぞれの立場で、出会い・結婚・出産・子育て支援の一翼を担う。						
	目標指標（R2）	①婚姻率（20～44歳） ②合計特殊出生率	①上昇 ②1.70					
	策定時の実績	①15.7(H27年) ②1.48(H27年)	現状	①15.1(H30年) ②1.48(H30年)	主要事業	家族や地域が支え合う子育て支援の展開		
事業名	やまがたハッピーライフプロジェクト事業費／三世代同居・近居情報発信事業		担当課・担当	子育て支援課少子化対策担当				
事業開始年度	平成27年度		事業終了(予定)年度					
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	三世代同居・近居による家族の絆で支え合う暮らしを推進し、子育ての不安感・負担感の軽減							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	三世代家族写真コンテストを開催し、入選作品をメディアを活用し露出して意識醸成							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：イベント運営やメディアとの折衝など効率的・効果的に事業遂行できるため							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	三世代同居・近居情報発信事業	2,614	2,166					
	計	2,614	2,166	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	1,307	1,083					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	1,307	1,083					
	計	2,614	2,166	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	三世代家族写真コンテスト応募作品数	活動実績	点	116	112			
		当初見込み	点	100	100	100	100	100
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	合計特殊出生率	成果実績	—	1.45	1.48			
		目標値	—	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70
		達成度	%	85.29%	87.06%			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

- ・費用対効果を意識した事業周知により一定数の応募作品数を確保
- ・作品の露出により家族で支え合う子育ての良さを伝え子育て負担感・不安感の払しょく、子育て応援の気運醸成により、合計特殊出生率を上昇

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	子育て負担感・不安感の払しょくするためには家族で支え合う子育ての良さを伝え、三世代同居や近居に前向きな気運を醸成することは重要であり、優先度が高い事業であるとともに、県が実施すべき事業である。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	三世代家族写真コンテストの応募数について、応募総数100点の見込みに対し、112点の応募があった。 事業目的および事業内容から、企画提案方式により企画を募集し、適切な支出先の選定を実施した。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割 妥当性 分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	三世代同居が少なくなっていく中、一定規模のコンテストを行うためには、県が主体となって行う必要があることから、市町村・民間等に委ねることは困難。
今 改後 善の 点課 等題 ・	これまでの応募作品を活用して、引き続き三世代同居や近居に前向きな意識の醸成や同居・近居による「家族の絆で支え合う暮らし」を応援していく。 また、子育ての普及のため、今と昔の育児常識の違いなど孫育てをする際の心得をHP等を通して周知していく。		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- ー: 該当しない